

Title	チマツチ神父のこと
Sub Title	
Author	岡本, 良知(Okamoto, Yoshitomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1940
Jtitle	史学 Vol.19, No.3 (1940. 12) ,p.110(490)- 110(490)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19401200-0110">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19401200-0110</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## チマツチ神父のこと

今の世に四百年前の聖フランシスコ・シャヴィエルを求めることは如何にも難しからう。今の世は餘りに忙がしく、餘りにも混み入つてゐるから、さ程の善知識も容易にはうかがはれまい。若しかの昔にあらしめたならばと其の人となりを偲ばしめる一人や二人ぐらひは天主教會の人々のうちにもあればあるものである。私は其の意味で今の宮崎教區長をしてをられるチマツチ神父を此の上なく敬ひ親しんでゐる。其の植物分類學上に於ける稀なる學識、音樂演奏作曲者としての優れたる才分、神學哲學上の崇高なる識見の人であるからのみではない。況してイタリヤの獨裁者ムッソリーニの古く親しい友人たる故では勿論ない。是等の孰れの事をも嘗て自ら口にしたことのない人である。謙遜といへば謙遜の極みにあり、虚心といへば虚心の極みにありとかういへば、過頌であらうと思ふ人もあらうが、其の人に直接すれば、餘り上手ではない日本語にも拘らず、自らに夫れを感知する筈である。素朴なる姿のうち限りなく慈味が溢れ出て、初對面の人をすら樂しげにせずには措かない。靈界の要求は此のなごやかなる老神父に靜居を許さない。而かも時局はイタリヤの公の機關以上に此の神父の存在を高く評價せねばならぬ筈である。

(岡本良知)